

伝え続ける技、受け継がれる心で
風土にあった住宅を提案する工務店



左：世界一の床柱倉庫にはシャム柿など厳選した約20種類の床柱を有する
右：常時6千本ストックしている良質な天然木は、自社倉庫でじっくり寝かされ自然乾燥を経て、この土地に最適な木材になる



【 有限会社 井坪工務店 】



「アフターフォローが出来ない仕事はしない」と代表取締役社長の井坪寿晴さん



有限会社 井坪工務店
〒飯田市上郷黒田693
☎0265-22-5262
<http://www.itsubo.co.jp/>

家づくり、守っていく
地域に密着した暮らしの会社

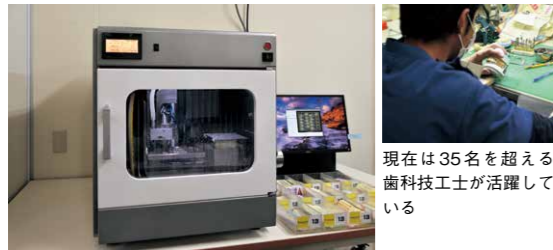
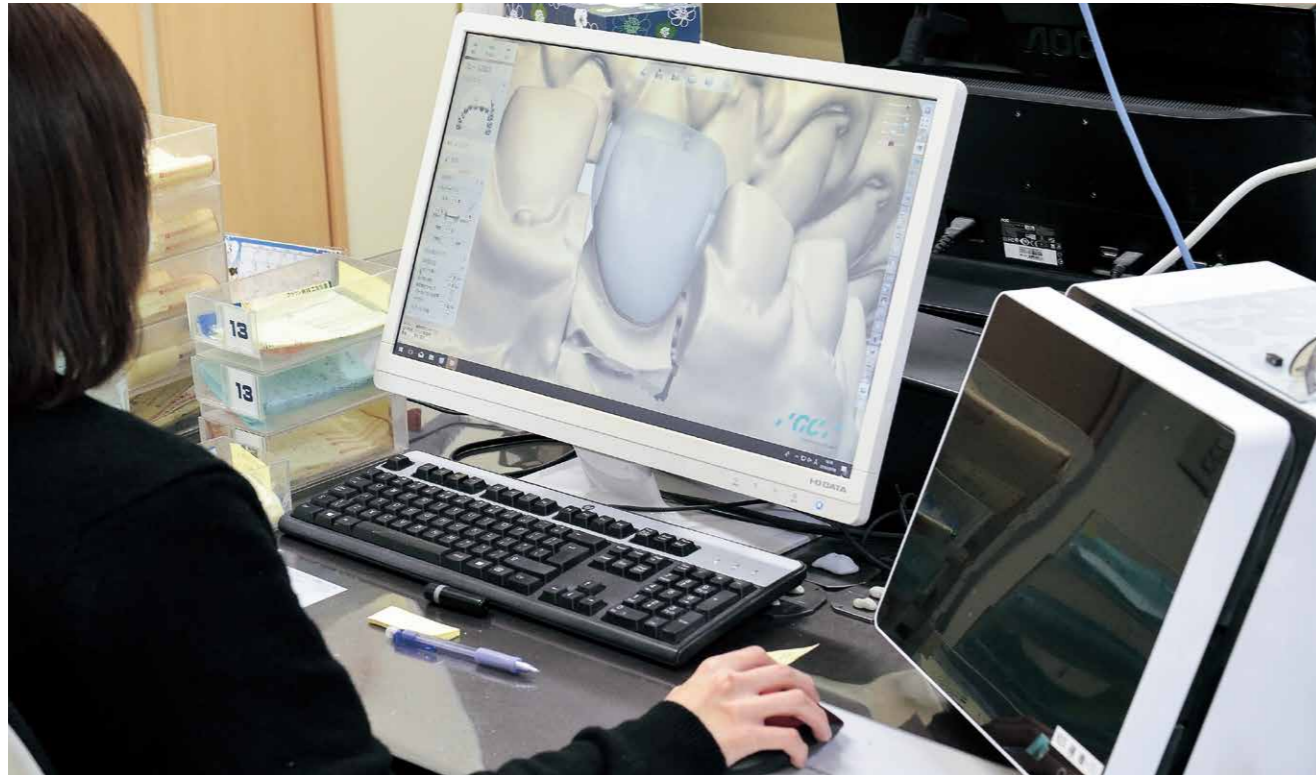
飯田・上下伊那地域で家づくり、守っていく会社として地元からの信頼も厚い井坪工務店。もともと大工・棟梁がはじめた井坪工務店は、お客様の自宅を建てている誇り高き仕事なんだということを思い描かせるため、外注契約が多い大工を社員雇用し、技や心の継承のための職人育成に力を注いでいる。建築現場での心得やお客様への対応など当社独自の厳しい基準をクリアした職人と業者だけしか家づくりができないルールを設けたり、施工基準書を作って厳しい現場監査をし、徹底した

品質管理も行っている。無理なセールスをしないのも当社の特徴の一つだ。ツアー参加者には工場や大工の現場を見せ、本当に信頼できる人間がつくっているかどうかを見極めていただき、共感したお客様しか次の段階に進まないというやり方をしています。モノづくりの体制が好きじゃなかったら、私たちが幸せに出来ませんし、現実を見ていただいてお買い求めいただくという付き合い方をしています」と社長の井坪寿晴さん。お客様から「ありがとう」と言っていたことを使命に、伊那谷の風土にあった木造の注文住宅を提案し続けている。

飛躍と挑戦！ 未来へつなぐ 飯田の企業

飯田市には高い技術力や発想力で、お客様のニーズに応える業界トップレベルの企業が多い。モノ・ヒト・未来を創造する企業は、スタッフが生き生きと活躍し、飯田市を牽引する存在として高い期待を集めている。その中でも、飯田市を代表する3社を訪問して企業の取組みを伺った。





現在は35名を超える
歯科技工士が活躍して
いる

【 株式会社 コスミック恵歯研 】

CAD/CAMや3Dプリンターなどの最新設備を有し、高いレベルのニーズにも応えている



「世界一の日本人技工士の技術を活かし、将来的には海外展開もしていきたい」と代表取締役社長の畠中實さん



株式会社 コスミック恵歯研
〒477-0301 飯田市三日市場1777-3
☎0265-25-0001
<http://www.cosmicmegumi.jp/>

**高い技能と技術を兼ね備えた
県内最大規模の歯科技工所**

**飯田から世界へ
入れ歯産業を地場産業に**

入れ歯やクラウンなどの歯科補綴物を製作しているコスミック恵歯研は、全国各地の歯科医はもちろん、同業者でもある技工所からの依頼も多い歯科技工所だ。業界のIT化が進む中、将来的には歯科技工のセンター機能としていろいろな歯科医や技工所からの仕事の受注を考える同社は、CAD/CAMや3Dプリンターなどの最新設備もいち早く導入した。「最近では口腔内スキャナーでスキャンングをかけ、データで送ってくる状況になりつつあります。これがセンターになって、日本で

も各先生方が設備を導入してくれば、送っていただいたデータを基に製品化して送ることができ、スピードアップにも繋がります。また、3Dプリンターで形を起こすことになれば、デザインしたデータを相手先に送り、そちらで形をつくるということもできます。これが実現すると輸送コストがカットされ、海外の仕事が簡単にできるようになるので、将来的にはそういう方向に進みたいですね」と社長の畠中實さん。お客様からオーダーにもきめ細かく対応できるような体制づくりを進め、入れ歯産業が地場産業になるように邁進し続けるコスミック恵歯研の、今後の活躍が楽しみです。



主にレーザー加工機などに利用されるアキシコンレンズ



経済産業省による「地域未来牽引企業」に選定された



副社長の細江国彦さん(上)と専務の本田英則さん(下)

超高精度の技術と型破りな発想力で 新時代を切り拓くものづくり企業



夏目光学株式会社
〒987-0801 飯田市鼎上茶屋3461
☎0265-22-2435
<http://www.mflens.co.jp>

【 夏目光学 株式会社 】

**さまざまなニーズに
レンズ技術で応える**

創業者から受け継がれた負けない強さと型破りの発想力で、世界が認めるものづくり企業となった夏目光学。昭和50年代、CDの光ピックアップに使用する「かまぼこ型レンズ」を開発。当時、夏目光学でしか対応できない特殊レンズとして注目を集め、「信州のおもしろいレンズ屋」としても話題となった。その後もボール型、棒型、トンネル型、菱形、円錐型など特殊形状のラインアップを増やしていった。

『夏目にしかできないものを
作れ、時代に必要とされるレンズ屋になれ』が創業者夏目哲三の口癖でした。今も開発部隊は『世の中に無い物をつくってやろうじゃないか』という気概があります」と専務の本田英則さん。「専門的な勉強をしてきたわけではなく、社員たちは仕事で切磋琢磨しながら、技術や知識を身に付けています」と副社長の細江国彦さんも笑みをみせる。今や夏目光学のエム・エフレンズは半導体製造装置、液晶露光装置、内視鏡などの医療分野、光通信、センサーなど、さまざまな分野で利用されている。そこには日本が誇るものづくりの精神が確かに息づいている。